

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

果樹カメムシ類の発生状況と防除対策について

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ等）の予察灯での誘殺数が8月中下旬から増えており、一部の果樹園では加害が確認され始めました。

本年はヒノキ毬果における果樹カメムシ類の寄生が多く、また、果樹類への被害が遅い時期まで続く可能性があるツヤアオカメムシの寄生が多いことから、注意が必要です。

園内外をこまめに見回り、果樹カメムシ類が確認された場合は、下記事項を参考に初期防除を徹底してください。

記

1. 発生概況

- 1) フェロモントラップでの誘殺数は平年よりやや少なく推移している（平成26年8月28日付予報第6号参照）が、予察灯では8月中下旬以降誘殺数が増加している（図1）。
- 2) 果樹カメムシ類の増殖源となるヒノキ毬果上における寄生数は、8月下旬から9月上旬にかけて増加している（表1）。本年はチャバネアオカメムシに加え、ツヤアオカメムシの寄生が多い地域がある（図2）。
- 3) ヒノキ毬果における口針梢数は平年並で推移している（表1）。
- 4) 本年はヒノキ毬果の結実量が平年に比べやや多いことから、山林における果樹カメムシ類の密度は高くなると予想される（表1）。
- 5) 県内の一部の果樹園において9月上旬頃から加害が確認されている。

2. 防除対策

- 1) 地域や園地により飛来状況は大きく異なるため、園内外をこまめに見回り、早期発見に努める。
- 2) 果樹カメムシ類は果樹園へ侵入した後、集合フェロモンで同種を園内に大量に誘引して大きな被害をもたらす。このため、果樹カメムシ類の果樹園への飛来を認めたら、殺虫効果・吸汁阻止効果が高い合成ピレスロイド剤、ネオニコチノイド剤（表2参照）による飛来初期の防除を徹底する。
- 3) 薬剤散布の際には、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、収穫前使用日数及び使用回数等の農薬使用基準を遵守する。
- 4) 有袋栽培のナシでも、袋の上から加害することがあるので注意する。
- 5) 飛来および加害が広範囲にわたってみられる場合は、地域単位で一斉防除を行う。
- 6) 台風襲来・強風雨後は、風であおられたカメムシが果樹園に飛来する恐れがあるので十分に注意する。
- 7) 防風樹として植えられているスギ、ヒノキ、サンゴジュなどが結実していれば、結

実部を刈り込む。

- 8) 果樹カメムシ類は樹高の高い樹木に一度飛来して、その後果樹園に飛来する傾向があるので、防風樹等は必要以上に高くないように剪除する。
- 9) 地域別の予察灯、フェロモントラップでの誘殺状況及び今後の発生状況については、農業技術防除センターホームページ (<http://www.pref.saga.lg.jp/web/boujo>) における情報を参照する。

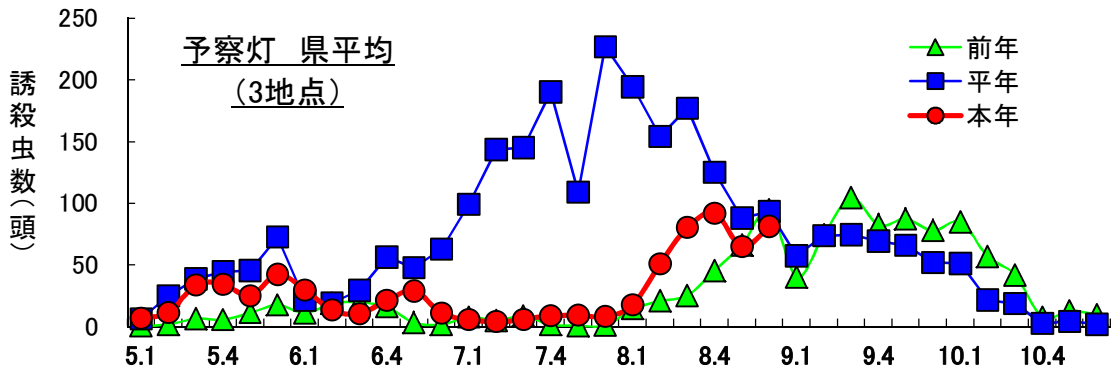


図1 予察灯（佐賀市大和町、小城市小城町、藤津郡太良町）での果樹カメムシ類誘殺数の推移

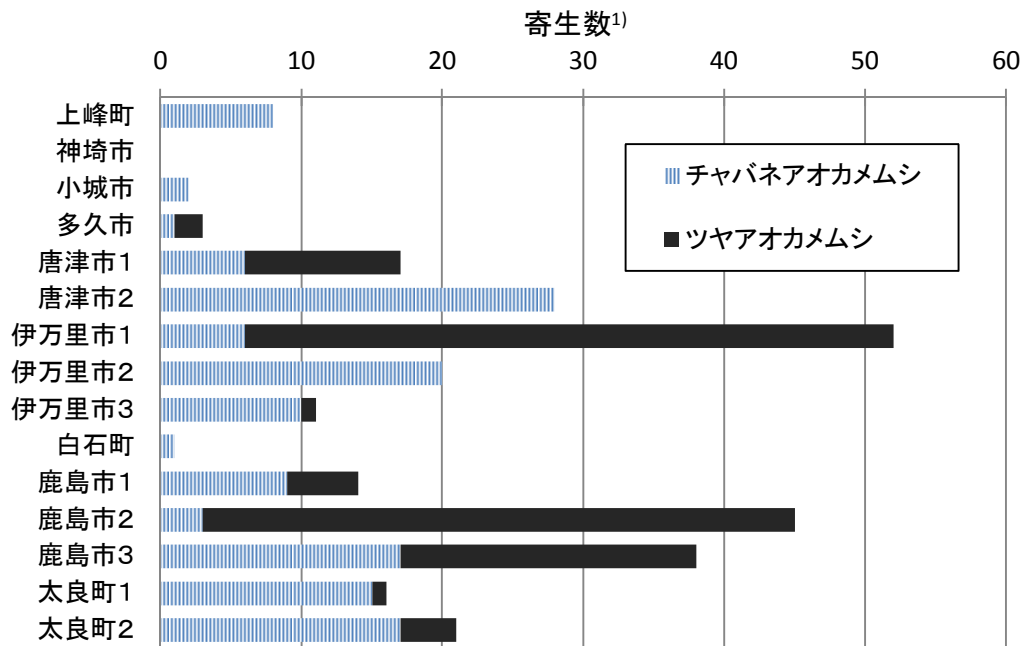


図2 チャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシ成虫のヒノキ毬果における寄生数 (2014年8月下旬調査)

1) 1地点あたりヒノキ樹の5枝を5回たたき落としで捕獲した成虫数の合計

表1 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類の寄生虫数、口針鞘数、及び毬果の着果状況

No.	調査地	ヒノキ毬果における寄生状況					口針鞘数			ヒノキ毬果着果状況
		7月下旬合計	8月上旬合計	8月下旬		8月下旬合計	7月下旬	8月上旬	8月下旬	
				成虫 ¹⁾	幼虫					
1	上峰町	1	20	8	0	8	0.1	3.2	6.5	中 ²⁾
2	神埼市	18	24	0	1	1	0.7	9.7	15.8	やや多
3	小城市	4	8	2	0	2	1.3	17.9	16.1	やや少
4	多久市	9	24	3	2	5	0.2	9.3	16.4	やや多
5	唐津市1	3	27	18	0	18	0.4	3.7	9.5	やや多
6	唐津市2	8	35	33	2	35	0.3	5.6	18.8	やや多
7	伊万里市1	42	30	53	0	53	0.9	11.6	13.8	やや多
8	伊万里市2	4	7	20	2	22	1.1	4.7	12.8	やや少
9	伊万里市3	14	9	11	3	14	1.3	2.8	5.0	中
10	白石町	6	4	1	1	2	1.3	2.6	8.9	極多
11	鹿島市1	0	33	14	11	25	0.1	0.6	2.3	やや多
12	鹿島市2	2	7	70	3	73	0.2	1.2	5.5	多
13	鹿島市3	7	9	39	1	40	0.8	2.6	10.8	極多
14	太良町1	29	2	16	6	22	0.9	5.1	17.2	やや多
15	太良町2	12	4	21	0	21	2.0	1.6	7.3	中
	平均	10.6	16.2	20.6	2.1	22.7	0.7	5.5	11.1	やや多
	平年	14.1	12.8			13.4	3.5	8.4	12.7	
	前年(H25年)	4.5	1.1			7.1	1.0	2.9	6.2	やや少

1)チャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシの寄生が主であった。

2)ヒノキ毬果着果指数：福岡総農試の達観調査法（一部改変）に基づいて調査

- ・極少：ほとんど結実が見あたらない
- ・少：梢頭部にわずかに結実
- ・やや少：梢頭部から中央部周辺にかけて結実した樹と梢頭部にわずかに結実した樹が混在
- ・中：梢頭部から中央部付近にかけて結実
- ・やや多：梢頭部から最下部にかけて全面的に結実した樹と全面的に結実しない樹が混在
- ・多：梢頭部から最下部にかけて全面的に結実
- ・極多：梢頭部から最下部にかけて全面的にブドウ状に結実
- ・極多：梢頭部から最下部にかけて全面的にブドウ状に結実

表2 果樹カメムシ類に登録のある主要薬剤

【カンキツ】

系統名	農薬名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
合成ピレスロイド*	テルスター水和剤	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	かんきつ
	マブリック水和剤20	2000～4000倍	収穫45日前まで	2回以内	かんきつ (みかんを除く)
			収穫21日前まで		みかん
	MR. ジョーカー水和剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	かんきつ
	ロディー乳剤	2000倍	収穫7日前まで	4回以内	かんきつ
ネオニコチノイド*	アクタラ顆粒水溶剤	2000倍	収穫14日前まで	3回以内	かんきつ
	アドマイヤーフロアブル	2000～5000倍	収穫14日前まで	3回以内	
	アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	
	スタークル顆粒水溶剤				

【ナシ】

系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数
合成ピレスロイド*	アグロスリン水和剤	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内
	スカウトフロアブル	1500倍	収穫前日まで	5回以内
	テルスター水和剤	1000～2000倍	収穫前日まで	2回以内
	MR. ジョーカー水和剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内
ネオニコチノイド*	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内

【カキ】

系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数
合成ピレスロイド*	アグロスリン水和剤	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内
	テルスター水和剤	1000～2000倍	収穫14日前まで	2回以内
	MR. ジョーカー水和剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内
ネオニコチノイド*	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内

【キウイフルーツ】

系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数
合成ピレスロイド*	アディオン乳剤	2000倍	収穫7日前まで	5回以内
ネオニコチノイド*	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内
	アドマイヤーフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内

※ 登録内容は平成26年9月4日現在のものである。農薬を使用する際は、必ずラベルを読んで、使用できる作物であるか、使用濃度、使用量、使用時期は適切か、使用回数は定められた回数を超えていないか等を確認する。